



社会福祉法人 聖隷福祉事業団
 総合病院 聖隷三方原病院
 聖隷おおぞら療育センター

〒433-8558
 静岡県浜松市北区三方原町3453
 TEL 053-437-1467

発行責任者 荻野和功
 編集者 横地健治

2019年9月1日

問題行動の考え方

横地 健治

知的障害のある人には、「問題行動」と呼ばれる困った行動をすることがあります。自分で自分を傷つける、物を壊す、他人を害する、社会ルールに反し迷惑をかけるなどの行為を指します。これらの人はどうしてこんな行動をするのかを考えてみます。

ヒトが行動を起こすには必ず意思が働きます。行動を起こす前の状況（先行事象、A）があり、その後意図して行動（B）を起こし、その行動の結果（後続事象、C）に対して判断を下すこととなります。こうした関係を「ABC分析」と呼びます。例えば、欲しいものがあれば、母親の前で大騒ぎする子どもがいたとします。母と一緒に買ったスーパーマーケットで、その子に母にチョコレート菓子を欲しいと訴え、母はそれを退けました（A）。そうしたら、その子はその場で大騒ぎしました（B）。そして、母はそのチョコレート菓子を買い与えました（C）。その後、買ってほしいものがあれば、ますます大騒ぎするようになりました（問題行動）。この場合は、C

がA↓Bを強化し、Bを増大させたとの仮説が成り立ちます。そして、Cを止めてBが止まれば、この仮説は当たっていたこととなります。こうした明快な関係性が真実のこともありますが、実際にははるかに複雑な関係性となっていることが一般的です。

例えば、前述のAの状況でも、その子はどうしてもそのチョコレート菓子をなければならなかったのか、あるいは代わりうるお菓子でもよかったのか、色々考えられます。また、大騒ぎした（前述のB）理由は、母の冷たさに対する抗議を示しただけなのかもしれない。その時のその子の心の状態は色々考えられます。そして、チョコレート菓子を購入した母（前述のC）の心も、愛しい我が子の欲求を拒否するのが忍びなかったのか、その場の騒がしさを回避するためにつとりばやい方法を選んだのか、色々考えられます。このように、一つのA↓B↓Cの出来事に対し、幾通りかの母と子の心が想定されます。そのすべての可能性についてABC分析しなければ

ならないと思います。有意な言語理解のない知的障害（運動障害はない）成人Sさんが、同室で過ごしている知的障害成人Tさんを叩くという問題行動について考えてみます。TさんがSさんに何かをしたから叩くわけではない。SさんがTさんを見たらいつも叩くわけではない。叩くときと叩かないときの違いは明らかではない。叩かれたTさんは反撃しないし、すぐ逃げるわけでもない。

この場合、Sさんはどういう意思をもってTさんを叩いたのかを想像することが、もっとも重要です。そのためには、SさんとTさんは互いにどういう存在として認識しているかが問題となります。長期間同居しているので、健常者なら家族のような存在です。しかし、有意な言語理解はない発達レベルなので、普通の家族が持つ親密さはないでしょう。また、普通の家族間のコンプレックスもないでしょう。そうなら、SさんとTさんの関係は、こうした家族感情のめばえる前の乳児の世界の方が合っているでしょう。例えば、保育園に預けられた乳児が二人いたとして、その二人はお互いをどう思っているかということ。も

しろん、長い対人経験を積んでいるSさんとTさんは、二人の乳児とまったく同じではありません。それでは、健常者がいつも一緒に住んでいる家族を叩く場合、どのような心が想定されるでしょうか。親密さとその裏返しに敵意が複雑に絡み合っているはず。そうなるには、その家族に対する期待と失望の歴史がなければなりません。また、暴力をふるわれた方は反撃するのが普通です。暴力をふるう方は相手が反撃できない立場にあることを事前にわかっているければなりません。家族への暴力は、叱責あるいは自分の権威に相手を屈服させるものだと思います。これらは人間関係の高度な認識を前提としています。一方、乳児間で起こる粗暴行為はこれとはまったく別物だと思います。

それでは、乳児は同居している他者をどう認識しているのでしょうか。胎児期から母の声を聴覚学習して、新生児は母を特別な存在として認識しているよう。二カ月になり、母に微笑み返しをします。この時期になり、母を同種の心を持った保護的な他者と認識します。八カ月にひとみしりをするようになります。